人文科教育研究　49　2022 年　pp.61-72

小学校国語教科書における俳句単元の掲載句に関する課題

髙　橋　慶　熙

1. 本資料の目的と意義

近年，多くの俳句指導に関しての実践及び研究が行われている。特に小学校段階で多く行われているが，その中で，どのような句を教材として提示するべきかということは考察の対象とされていないことが多い。しかし，鑑賞指導あるいは創作指導において，指導法だけではなく，どのような句を教材として提示するかもその指導法の教育的効果に大きく関わると考えられる。

現行小学校国語教科書を対象とした研究として，髙橋慶熙（2021）が挙げられる。しかし，髙橋（2021）は，主に俳句単元の配置と言語活動の内容を研究対象としているため，掲載句については別表として提示するに留まっており，分析は行なっていない。

よって，本研究では，児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示するべきなのかを明らかにする基礎的研究として，現行小学校国語教科書の俳句単元に掲載されている句を調査し，分析を行う。

本資料の意義は 2 つある。1 つ目は，現行小学校国語教科書の俳句単元に掲載されている句を明らかにすることで，児童たちがどのような特徴や構造を持つ句に触れているのかを明らかにできることである。これは，小学校における俳句指導の実態を把握するための一助となると考えられる。2 点目は，現行小学校国語教科書における俳句単元の掲載句を分析することで，俳句指導において児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示するべきかを考察する際の基礎的な参考資料となると考えられる。

2. 調査対象と調査方法

調査対象は，光村図書，東京書籍，学校図書，教育出版の平成 31 年検定版小学校国語教科書であり，髙橋（2021）が示している俳句単元に掲載されている句を基に調査及び考察を行う。

調査Ⅰは，俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句を対象として行う。作者の年代から俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句が俳諧の発句か俳句かを調査する。調査結果を基に課題についての考察を行う。

調査Ⅱは俳句鑑賞単元に掲載されている句を対象として行う。俳句鑑賞単元に掲載されているそれぞれの句にどのような季語が含まれているかを調査する。調査結果を基に課題について考察を行う。

調査Ⅲでも，俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句を対象として行う。俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されているそれぞれの句がどのような構造なのかを調査する。復本

一郎（1999）の切れに関する考察と長谷川櫂（2012）の切れに関する考察を基にそれぞれの句がどのような構造なのかを明らかにする。調査結果を基に課題について考察を行う。

3. 調査Ⅰの結果と考察

3.1　調査Ⅰの結果

以下の表１は，俳諧の発句と俳句を分類したものである。太字で示した句が俳句である。小西甚一（1995）によると，俳句とは正岡子規の俳句革新以後の句を示す。よって，正岡子規の俳句革新以後に詠まれ，俳句と考えられる句は太字で示した。また，掲載されている句の中では，小学生が詠んだ句も掲載されていた。そのため，小学生が詠んだ句については，（小）の記号を併せて示した。

表１　平成 31 年検定版小学校国語教科書の俳句単元に掲載されている句の俳諧の発句と俳句の分類

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小3年・上	**「俳句を楽しもう」** 古池や蛙飛びこむ水の音　松尾芭蕉 閑かさや岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉 春の海終日のたりのたりかな　与謝蕪村 菜の花や月は東に日は西に　与謝蕪村 雪とけて村いつぱいの子どもかな　小林一茶 夏山や一足づつに海見ゆる　小林一茶		**「俳句」** ふる池や蛙飛びこむ水の音　松尾芭蕉 やせがえるまけるな一茶これにあり　小林一茶 **青蛙おのれもペンキぬりたてか　芥川龍之介** 梅一輪一輪ほどのあたたかさ　服部嵐雪 菜の花や月は東に日は西に　与謝蕪村 **咲き満ちてこぼるる花もなかりけり　高浜虚子** **紫陽花に秋冷いたる信濃かな　杉田久女** 名月や池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉 名月をとってくれろと泣く子かな　小林一茶 **柿の葉や一つ一つに月の影　夏目漱石** **月さして風鈴の影生まれけり　清崎敏郎** 閑かさや岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉 月の夜や石に出て鳴くきりぎりす　加賀千代女 **赤とんぼ筑波に雲もなかりけり　正岡子規** **しずかなる力満ちゆきばったとぶ　加藤楸邨**	**「俳句に親しむ」** **せみの声遊べと聞こえる日　山崎早季子（小）** 雪とけて村いっぱいの子どもかな　小林一茶 菜の花や月は東に日は西に　与謝蕪村 **はねわっててんとう虫のとびいずる　高野素十** **さじなめて童たのしも夏氷　山口誓子** 名月や池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉 **かきくえば鐘が鳴るなり法隆寺　正岡子規** **せきの子のなぞなぞあそびきりもなや　中村汀女** **妹を泣かして上がる絵すごろく　黛まどか**
小3年・下		**「俳句に親しむ」** 閑かさや岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉 雪とけて村一ぱいの子どもかな　小林一茶 **ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな　村上鬼城** 菜の花や月は東に日は西に　与謝蕪村 **青蛙おのれもペンキぬりたてか　芥川龍之介** **ひつぱれる糸まっすぐや甲虫　高野素十** **赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり　正岡子規** **をりとりてはらりとおもきすすきかな　飯田蛇笏** 名月を取ってくれろとなく子かな　小林一茶 **スケートの紐むすぶ間も逸りつつ　山口誓子** 雪の朝二の字二の字の下駄の跡　田捨女 **遠山に日の当たりたる枯野かな　高浜虚子**		
小4年・上	**「短歌・俳句に親しもう（一）」** 名月や池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉 夏河を越すうれしさよ手に草履　与謝蕪村 雀の子そこのけそこのけ御馬が通る　小林一茶			
小4年・下	**「短歌・俳句に親しもう（二）」** **柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺　正岡子規** **稠一葉日当たりながら落ちにけり　高浜虚子** **外にも出よ触るるばかりに春の月　中村汀女**			
小5年・上	**「日常を十七音で」** **〔創作例として掲示〕** **にじの橋雨のしずくのすべり台　谷口ほのか（小）** **次は勝つボールをけって夏の空　松岡元毅（小）** **雪だるま星のおしゃべりべちゃくちゃと　松本たかし** **すずらんのりりりりりりと風に在り　日野草城** 行く秋やつくづくおしと鳴くせみか　小林一茶 行く秋やつくづくおしと蝉の鳴く　小林一茶 **をりとりてはらりとおもきすすきかな　飯田蛇笏** **チチポポと鼓打たうよ花月夜　松本たかし**			**「俳句を作ろう」** **〔鑑賞の対象として掲示〕** **赤とんぼ飛び立つ田んぼ黄金色　佐伯京香（小）** **てのひらに桜ひらひらまいおちる　清家京一郎（小）** **ひまわりといっしょにぐんぐんのびていく　渡海航（小）** **あそぼうよてまねをしてる落葉たち　荻野心那（小）** **雪だるままん丸の目で空見てる　成田有梨亜（小）**
小5年・下			**「俳句・短歌を作ろう」** **〔創作例として掲示〕** 名月をとってくれろとなく子かな　小林一茶	
小6年・上		**「心が動いたことを十七音で表そう」** **〔鑑賞の対象として掲示〕** **赤ちゃんの親ゆび小ゆびつくしの子　七尾奏（小）** **あじさいをぽんぽんたたく帰り道　北野瑠大（小）** **あきあかね光るぶたいでパーティーだ　中原直寛（小）** **冬の月見ている目まで丸くなる　小川愛里（小）**		
小6年・下				

表１から，俳句鑑賞単元には俳句と俳諧の発句が混在しており，俳句創作単元では俳句，特に小学生が詠んだ句が多く掲載されていることが明らかとなった。

3.2　調査Ｉの考察

水原秋桜子（1960）は，俳句と俳諧の発句に関して以下のように述べている。

> 昔の句と，現代の句と，どちらを読むのがよいかという御質問ですか？　それは差し当たって現代の句ばかりでよいでしょう。と言うのは，芭蕉の句などは立派なものにはちがいありませんが，主観が非常に濃く出ていますし，古事が織り込んであるため難解のものもありますし，とにかく現代の俳句とはかなり違うところがあるのです。また蕪村なども，空想で詠んだ句がかなり多くありますから，これも現代の写生を主とした句とはちがう傾向を持っています。その他もまず大同小異で，直ちに現代俳句を学ぶ上の栄養とはなりませんから，まずはじめには現代俳句だけを学び，それから子規時代に遡り，次に蕪村時代，最後に芭蕉時代を学ぶことにすればよいと考えます。（pp.45-46）

水原（1960）が述べているように，俳諧の発句を鑑賞するためには，少なからず古事に関する知識が必要になると考えられる。俳諧の発句や俳句に触れたことがなく，古事に関しても多くは学んでいない児童たちからすれば，俳諧の発句を鑑賞することは，多大な負担になると考えられる。

さらに，俳諧の発句と俳句に関して，青木幹勇（1992）は以下の指摘を行なっている。

> これまでの俳句指導では，教科書に載せられた，古典俳句，近代の名句などを教材にしてきました。しかし，それが俳句として客観的評価の高いものであっても，子どもたちにはしっくりと理解されるものではなかったといえそうです。（p.20）

青木（1992）が述べている「古典俳句」とは，俳諧の発句のことだと考えられる。青木（1992）が述べているように，児童たちにとっては，教科書に載せられている俳諧の発句を鑑賞しても，しっくりくることは難しいことが容易に想像できる。青木（1992）は上記の指摘を踏まえて，小学生たちが詠んだ句を教材として積極的に採用している。小学生たちが詠んだ句を教材として採用することで，作品のモチーフがよく分かること，作者の生活感情に共感が持てることを指摘している。確かに，近現代の句を提示されるよりも，自分と同年代の小学生が詠んだ句を提示された方が児童たちの俳句への学習意欲は喚起されると考えられる。自分と同年代の小学生が詠んだ句を契機として，次第に近現代の句を学習していくことで，俳句という教材自体への学習意欲も高められると考えられる。

以上のことから，小学校国語教科書の俳句鑑賞単元においては，小学生が詠んだ俳句から近現代の俳句という流れで句を掲載するべきだと考えられる。

俳句鑑賞単元とは対照的に，俳句創作単元には多くの小学生が詠んだ句が掲載されている。青木（1992）は，創作指導の際，小学生が詠んだ句を提示することの効果として，わたしにも作

れそうだなと親近感を持てるようになることを挙げている。現行の小学校国語教科書における俳句創作単元の掲載句を踏まえると，俳句創作単元の中で児童たちはわたしにも作れそうだと親近感を持つことができるだろう。しかし，現行の小学校国語教科書の俳句創作単元には近現代の俳句が極端に掲載されていない。授業者が児童たちに近現代の俳句の歴史的，文学的な評価などを押し付けることは避けるべきだが，近現代の俳句に全く触れさせないのも避けるべきである。俳句創作単元においても，小学生が詠んだ句から近現代の句を学習していくことで，創作への意欲がより高められると考えられる。

以上のことから，俳句創作単元においても，小学生が詠んだ句から近現代の句という流れで句を掲載するべきだと考えられる。

4. 調査Ⅱの結果と考察

4.1　調査Ⅱの結果

次ページの表２は，髙橋（2021）が示している現行小学校国語教科書の俳句鑑賞単元に掲載されている句に使用されている季語を分類したものである。髙橋（2021）によると，俳句鑑賞単元は３年生及び４年生に設定されているため，３年生と４年生の俳句単元を調査対象とした。それぞれの句に含まれている季語を抜き出し，分類結果を作者と合わせて示した。季語の季節の分類は，『合本俳句歳時記　第五版』を基に行い，春・夏・秋・冬・新年の５つに分類した。また，季語が複数ある場合は，句の中心だと考えられる語を季語とし，分類を行った。

表２から，東京書籍の俳句鑑賞単元は，春・夏・秋・冬の季語を用いた句を掲載しているが，新年の季語を用いた句は掲載されていない。また，光村図書，学校図書，教育出版の俳句鑑賞単元は，春・夏・秋の季語を用いた句に対して冬・新年の季語を用いた句の掲載数が少ないことが明らかとなった。

4.2　調査Ⅱの考察

尾形功（1995）は，季語は，四季の変化に富み寄物陳思の伝統を負う日本の文学風土の中で，作者と読者の共通理解を媒介し，俳句の様式性を支えてきたが，科学文明と都市化の進展に伴う季節感の喪失と，国際化の波の中で，季語がどこまでその効用を担い得るかは，今後に残された問題だとしている。では，作者と読者は何を共通理解していたのだろうか。

長谷川櫂（2008）は，季語に関して以下のように述べている。

> 季語を使う上での（中略）いちばん大事なことは，季語の本意を知ることです。本意に従うにしろ，背くにしろ，これを知っていなくては話になりません。（p.10）

作者と読者は，この季語の本意を共通理解していたと考えられる。

しかし，小川雅子（2017）は，児童が季節を感じたことをメモした取材ノートの分析を通して，児童は身近な自然環境・学校環境・家庭環境の季節の微妙な変化を意識していることを明らかに

表 2　平成 31 年検定版小学校国語教科書の俳句鑑賞単元に掲載されている句の季語の分類

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小3年・上	**「俳句を楽しもう」** **蛙**　春 **蝉**　夏 **春の海**　春 **菜の花**　春 **雪とけて**　春 **夏山**　夏		**「俳句」** **蛙**　春 **やせがえる**　春 **青蛙**　夏 **梅**　春 **菜の花**　春 **花**　春 **秋冷**　秋 **名月**　秋 **名月**　秋 **柿**　秋 **風鈴**　夏 **蝉**　夏 **月の夜**　秋 **赤とんぼ**　秋 **ばった**　秋	**「俳句に親しむ」** **せみ**　夏 **雪とけて**　春 **菜の花**　春 **てんとう虫**　夏 **夏氷**　夏 **名月**　秋 **かき**　秋 **せき**　冬 **すごろく**　新
小3年・下		**「俳句に親しむ」** **蝉**　夏 **雪とけて**　春 **桜**　春 **菜の花**　春 **青蛙**　夏 **甲虫**　夏 **赤蜻蛉**　秋 **すすき**　秋 **名月**　秋 **スケート**　冬 **雪**　冬 **枯野**　冬		
小4年・上	**「短歌・俳句に親しもう（一）」** **名月**　秋 **夏河**　夏 **雀の子**　春			
小4年・下	**「短歌・俳句に親しもう（二）」** **柿**　秋 **桐一葉**　秋 **春の月**　春			
春	6	3	5	2
夏	3	3	3	3
秋	3	3	7	2
冬	0	3	0	1
新年	0	0	0	1

しており，その表現は，時代や地域の環境に応じた独自の傾向があり，季語との違いもあったことを明らかにしている。

小川（2017）の指摘から，教科書に掲載されている句で用いられている季語の本意と児童たちが抱いている季節感は異なると考えられる。ここで重要なことは，児童たちに季語がどのような本意を持っているかを暗記させることではない。つまり，尾形（1995）が述べている作者と読者の共通理解を形成することではなく，児童たちが季語に対してどのようなイメージや連想を

抱くかである。皆川直凡（2005）はこの季語の様々なイメージや連想を呼び覚ます機能のことを季語の象徴機能と定義している。季語の象徴機能を通して，様々なイメージや連想を抱き，児童たちが自身の身の回りの環境をどう捉えているのかを認識することが最も重要だと考えられる。自身が身の回りの環境をどう捉えているのかを認識することで，身の回りの環境の価値を認識することにつながると考えられる。

俳句鑑賞単元に掲載されている句の中で，冬・新年などの特定の季節の季語が用いられないということは，その季節の季語の象徴機能が作用しないということになる。特定の季節の季語を掲載するのではなく，各季節の季語を満遍なく掲載し，児童たちが季語を通して自身の身の回りの環境の価値を認識することができるように指導するべきだと考えられる。

5. 調査Ⅲの結果と考察

5.1 調査Ⅲの結果

調査には，復本一郎（2014）と長谷川（2012）の考察を用いた。

復本（2014）は，「切れ」が初心者や純粋読者には難物であったことを指摘しており，「首部」と「飛躍切部」という考え方を提唱している。「首部」と「飛躍切部」に関して以下のように述べている。

> 俳句の構造を「切字」や「切れ」という点で考えるのではなく，「$_{A}$五・七」プラス「$_{B}$五」か，「$_{A}$五」プラス「$_{B}$七・五」(時に「$_{A}$五・七・五」プラス $_{B}\alpha$ ＝読者という場合もある）という部分（ブロック）で考えようというものである（「句またがり」による変則もあり得る)。A が「首部」であり，B が「飛躍切部」である。そして，「首部」と「飛躍切部」との距離は，蜘蛛の糸のごとく，一縷のイメージで繋がっていさえすれば，離れていればいるほど，読者にとって，面白い俳句，ということになるのである。(p.246）

以上の復本（2014）が提唱している「首部」と「飛躍切部」のパターンを図示すると以下のようになる。

図１　首部と飛躍切部の類型（復本一郎（2014）に記述を基に筆者作成）

1.「$_{A}$五・七」プラス「$_{B}$五」
2.「$_{A}$五」プラス「$_{B}$七・五」
3.「$_{A}$五・七・五」プラス $_{B}\alpha$ ＝読者
※「句またがり」による変則もあり得る

1 及び 2 のパターンが取り合わせの句の構造であり，3 は一物仕立ての句の構造だと考えられる。

復本（2014）は，「切字」によって「切れ」が生じることしか想定していないが，長谷川（2012）によると，「切れ」は体言止めでも生じる。つまり，復本（2014）の「首部」と「飛躍切部」という

考察は，句の構造を切字や体言止めから生じる「切れ」を基点として捉え直したものだと考えられる。

復本（2014）の考察に関連ある考察として，長谷川（2012）は原石鼎の「秋風や模様のちがふ皿ふたつ」と高浜虚子「神にませばまこと美はし那智の瀧」を比較して，どちらの句にも句中に切れがあるが，「秋風や模様のちがふ皿ふたつ」は取り合わせであり，「神にませばまこと美はし那智の瀧」は一物仕立てだとしている。なぜそのように考えられるかについて，長谷川（2012）は以下のように述べている。

> 一つ有力な手がかりがあります。それは切れによって分けられた部分がそれだけで完結しているかどうかということです。
>
> 石鼎の句を見ると，「模様のちがふ皿二つ」は「模様の違う二つの皿がある」ということですからこれだけで意味をなしています。そこで「秋風や」はこの「模様のちがふ皿二つ」に取り合わせてあることがわかります。
>
> 一方，虚子の句は「神にませばまこと美はし」だけでは何が美しいのかわからない。つまり，意味が完結しない。「神にませばまこと美はし」はすぐ次に「那智の瀧」がきてはじめて「那智の瀧」が美しいということがわかる。この句は「神にませばまこと美はし」と「那智の瀧」の二つに分かれているけれど，一物仕立てなのです。（pp.48-49）

さらに，長谷川（2012）は，高浜虚子の「神にませばまこと美はし那智の瀧」のように，一物仕立てでありながら，句中に切れがある場合，その切れはリズムを整えるために用いられており，『去来抄』を踏まえて，「口あひ」の切れと定義している。

復本（2014）と長谷川（2012）を合わせて考えると，句中で首部と飛躍切部に分かれており，「五・七」の首部か「七・五」の飛躍切部がそれだけで意味が完結していれば取り合わせということになる。また，句中に切れはあるが，「五・七」の首部か「七・五」の飛躍切部がそれだけで意味が完結していなければ，その句は口あひの切れを用いた一物仕立ての句ということになる。さらに，句中で首部と飛躍切部に分かれていない句は，純粋な一物仕立てと考えられる。これらをまとめると，以下の図２のように示すことができる。

図２　取り合わせ，口はひの切れを用いた一物仕立て，一物仕立てのそれぞれの定義（復本（2014）と長谷川（2012）を基に筆者作成）

- 取り合わせ…句中で首部と飛躍切部に分かれており，「五・七」の首部か「七・五」の飛躍切部がそれだけで意味が完結している句。
- 口はひの切れを用いた一物仕立て…句中に切れはあるが，「五・七」の首部か「七・五」の飛躍切部がそれだけで意味が完結していない句。
- 純粋な一物仕立て…句中で首部と飛躍切部に分かれていない句。

図２で示したそれぞれの定義を基に，現行小学校国語教科書に掲載されている句を分類したものが，以下の表３である。分類結果は作者とともに示した。「取」は取り合わせの句を示しており，「一（口）」は口あひの切れを用いた一物仕立ての句，「一」は純粋な一物仕立ての句をそれぞれ示している。また，それぞれの俳句鑑賞単元，俳句創作単元の「取」「一（口）」「一」を集計したものが，表４及び表５である。

表３　平成 31 年検定版小学校国語教科書の俳句単元に掲載されている句の構造分析結果

	光村図書	東京書籍	学校図書	教育出版
小3年・上	**「俳句を楽しもう」** ・古池や/蛙飛びこむ水の音　松尾芭蕉　取 ・閑かさや/岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉　取 ・春の海/終日のかのたりかな　与謝蕪村　一（口） ・菜の花や/月は東に日は西に　与謝蕪村　取 ・雪とけて村いっぱいの子どもかな　小林一茶　一 ・夏山や/一足づつに海早ゆる　小林一茶　取		**「俳句」** ・ふる池や/蛙飛びこむ水の音　松尾芭蕉　取 ・やせがえる/まけるな一茶これにあり　小林一茶　一（口） ・蓑虫/おのれもペンキぬりたてか　芥川龍之介　一（口） ・梅一輪/一輪ほどのあたたかさ　服部嵐雪　一（口） ・菜の花や/月は東に日は西に　与謝蕪村　取 ・咲き満ちてこぼるる花もなかりけり　高浜虚子　一 ・菖蒲花に秋冷いたる信濃かな　杉田久女　一 ・名月や/池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉　取 ・名月をとってくれろと泣くこかな　小林一茶　一 ・柿の葉や/一つ一つに月の影　夏目漱石　一（口） ・月さして風鈴の影牛まわけり　清崎敏郎　一 ・閑かさや/岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉　取 ・月の夜や/石に出て焼くきりぎりす　加賀千代女　取 ・赤とんぼ/筑波に雲もなかりけり　正岡子規　取 ・しずかなる力湧ちゆきぱったとぶ　加藤楸邨　一	**「俳句に親しむ」** ・せみの声/遊べ遊べと聞こえる日　山崎早季子　一（口） ・雪とけて村いっぱいの子どもかな　小林一茶　一 ・菜の花や/月は東に日は西に　与謝蕪村　取 ・はねわってでんとう虫のとびいずる　高野素十　一 ・さしなめて蓴かのしも夏浪　山口誓子　一 ・名月や/池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉　取 ・かきくえば鐘が鳴るなり/法隆寺　正岡子規　取 ・せきの子のなぞなぞあそびきりもなや　中村汀女　一 ・鉄を泣かして上がる絵すごろく　黛まどか　一
小3年・下		**「俳句に親しむ」** ・閑かさや/岩にしみ入る蝉の声　松尾芭蕉　取 ・雪とけて村一ぱいの子どもかな　小林一茶　一 ・ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな　村上鬼城　一 ・菜の花や/月は東に日は西に　与謝蕪村　取 ・蓑虫/おのれもペンキぬりたてか　芥川龍之介　一（口） ・ひつぱれる糸まつすぐや/甲虫　高野素十　一（口） ・赤蜻蛉/筑波に雲もなかりけり　正岡子規　取 ・をりとりてはらりとおもきすすきかな　飯田蛇笏　一 ・名月を取ってくれろとなく子かな　小林一茶　一 ・スケートの紐むすぶ間も凍りつつ　山口誓子　一 ・雪の朝二の字二の字の下駄の跡　田捨女　一（口） ・遠山に日の当たりたる枯野かな　高浜虚子　一		
小4年・上	**「短歌・俳句に親しもう（一）」** ・名月や/池をめぐりて夜もすがら　松尾芭蕉　取 ・夏河を越すうれしさよ/手に草履　与謝蕪村　取 ・金の子そこのけそこのけ御馬が通る　小林一茶　一			
小4年・下	**「短歌・俳句に親しもう（二）」** ・焼くへば鐘が鳴るなり/法隆寺　正岡子規　取 ・梅一輪/一輪ほどのあたたかさ　高浜虚子　一（口） ・外にも出よ/触るるばかりに春の月　中村汀女　一（口）			
小5年・上	**「日常を十七音で」** **〔創作例として掲示〕** ・広じの縁/西のしずくのすべり台　谷口ほのか　取 ・立ち漕ぐ/ボールをけって夏の空　松岡元毅　一（口） ・雪だるま/星のおしゃべりぐちゃくちゃど　松本たかし　一（口） ・すずんんのりりりりりりと星に在り　日野草城　一 ・行く秋や/つくづくおしと鳴くせみか　小林一茶　取 ・行く秋や/つくづくおしと蝉の鳴く　小林一茶　取 ・をりとりてはらりとおもきすすきかな　飯田蛇笏　一 ・チチポポと鼓打たうよ/西行忌　松本たかし　取			**「俳句を作ろう」** **〔鑑賞の対象として掲示〕** ・赤とんぼ/田びなつつ田んぼ黄金色　佐伯京香　一（口） ・てのひらに桜ひらひらまいおちる　清家京一郎　一 ・ひまわりをいっしょにぐんぐんのびていく　渡海航　一 ・あそぼうよ/てまねきしてる落葉たち　疾野心那　一（口） ・雪だるま/まんれの目で空見てる　成田有架里　一（口）
小5年・下			**「俳句・短歌を作ろう」** **〔創作例として掲示〕** ・名月をとってくれろとなく子かな　小林一茶　一	
小6年・上		**「心が動いたことを十七音で表そう」** **〔鑑賞の対象として掲示〕** ・赤ちゃんの親ゆび/小ゆび/つくしんぼ　七尾英　一（口） ・あじさいをばんばんたたく降り道　北野場大　一 ・あきあかね/学芸ぶたいでパーティーだ　中原直寛　一（口） ・冬の月/見ている目までれくなる　小川愛里　一（口）		
小6年・下				

表４　平成 31 年検定版小学校国語教科書の俳句鑑賞単元における構造分析結果の集計

	取	一（口）	一
光村図書	7	3	2
東京書籍	3	3	6
学校図書	6	4	5
教育出版	3	1	5

表５　平成 31 年検定版小学校国語教科書の俳句創作単元における構造分析結果の集計

	取	―（口）	―
光村図書	4	2	2
東京書籍	0	3	1
学校図書	0	0	1
教育出版	0	3	2

表４から，光村図書，学校図書の俳句鑑賞単元では，取り合わせの句が最も掲載されている。東京書籍，教育出版では純粋な一物仕立ての句が多くなっている。しかし，俳句創作単元に比べると，俳句鑑賞単元では構造別の掲載数に大きな違いはない。

一方で，表５から，光村図書以外の俳句創作単元では取り合わせの句が掲載されていない。また，学校図書の俳句創作単元では，一物仕立ての句しか掲載されていない。

5.2　調査Ⅲの考察

5.1 から，俳句鑑賞単元に比べて，俳句創作単元では掲載句の構造に偏りがあり，光村図書以外の俳句創作単元では，取り合わせの句が掲載されていない。

近年，取り合わせは創作の取り組みやすさから創作指導の際に用いられることが多い。例えば，夏井いつき（2011）は，取り合わせの手法が初心者への俳句創作指導に有効であるとしており，取り合わせを使用して，「句会ライブ」という句会を実施している。この句会ライブは小学校の実践報告などで多く報告されているが，表５で確認したように，光村図書以外の俳句創作単元では取り合わせの句が掲載されていない。児童たちに取り合わせを用いて創作指導を行う際は，俳句創作単元に掲載されている句以外から，取り合わせの句を選び，児童たちに提示する必要がある。

6. 本資料のまとめと今後の課題

本研究では，児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示するべきなのかを明らかにする基礎的研究として，現行小学校国語教科書における俳句単元に掲載されている句を調査，分析を行い，課題を考察した。

調査Ⅰは俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句を対象として，作者の年代から俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句が俳諧の発句か俳句かを調査した。調査Ⅰの結果，俳句鑑賞単元には俳句と俳諧の発句が混在しており，俳句創作単元では俳句，特に小学生が詠んだ句が多く掲載されていることが明らかとなった。

調査Ⅱは俳句鑑賞単元に掲載されている句を対象として行った。俳句鑑賞単元に掲載されているそれぞれの句に春・夏・秋・冬・新年のどの季節の季語が含まれているかを調査，分析し，課題を考察した。調査Ⅱでは，東京書籍の俳句鑑賞単元は，春・夏・秋・冬の季語を用いた句を掲載しているが，新年の季語を用いた句は掲載されていないことが明らかとなった。また，光村図

書，学校図書，教育出版の俳句鑑賞単元では，春・夏・秋の季語を用いた句に対して冬・新年の季語を用いた句の掲載数が少ないことが明らかとなった。

調査Ⅲでは俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されている句を対象として，復本（2014）の切れに関する考察と長谷川（2012）の切れに関する考察を基に俳句鑑賞単元及び俳句創作単元に掲載されているそれぞれの句がどのような構造なのかを明らかにした。調査Ⅲの結果，俳句鑑賞単元では，取り合わせの句，口あひの切れを用いた一物仕立ての句，純粋な一物仕立ての句の掲載数に大きな違いは見られなかったが，光村図書以外の俳句創作単元では取り合わせの句が掲載されていないことが明らかになった。

従来，小学校国語教科書の調査としては，仁野平智明（2016）や髙橋（2021）のように俳句単元の言語活動に着目したり，藤森裕治・西一夫（2009）のように小学校国語教科書全体を対象とした季節に関する語彙調査などが行われてきた。しかし，俳句単元の掲載句は調査の対象となることが多くなかった。そのため，現行小学校国語教科書の俳句単元にどのような特徴や構造を持つ句が掲載されているのかを明らかにできたことは，本稿の成果だと考えられる。

以上の調査結果及び考察を踏まえて，今後の課題は次の３点が考えられる。

１点目は，児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示すべきかという問いに答えられていない点である。本稿での調査はあくまでも児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示すべきかを明らかにするための基礎的な研究である。児童たちにどのような特徴や構造を持つ句を提示すべきかを明らかにするために本稿を基礎としてより研究を進めていく必要がある。

２点目は，言語活動との関連は考察できなかった点である。俳句単元は掲載句だけで構成されているのではなく，言語活動も俳句単元の要素である。掲載句と言語活動が相関して，単元は構成されている。今後，掲載句と言語活動との関係についても調査を実施する必要がある。

３点目は，通時的な調査は実施できなかった点である。本稿は，現行小学校国語教科書の俳句単元を対象とした共時的な調査しか行っていない。今後は通時的な調査も実施する必要がある。中嶋真弓（2011）は，国定小学校用国語教科書第４･５期に掲載されている俳句を調査している。今後は，国定小学校用教科書に掲載されている俳句と現行小学校国語教科書に掲載されている俳句の比較も行い，通時的な調査も進めていきたい。

参考・引用文献

・青木幹勇（1992）『授業　俳句を読む，俳句を作る』太郎次郎社.

・大岡信（1995）「寄物陳思」尾形功・草間時彦・島津忠夫・大岡信・森川昭編，『俳文学大辞典』，p.213 角川書店.

・尾形功（1995）「季語」尾形功・草間時彦・島津忠夫・大岡信・森川昭編，『俳文学大辞典』，pp.200-201，角川書店.

・小川雅子（2017）「小学校における俳句の創作指導―俳句の創作過程の分析―」『人文科教育研究』44，pp.147-160，人文科教育学会.

・小西甚一（1995）『俳句の世界』講談社.
・髙橋慶熙（2021）「小学校国語教科書における俳句単元の配置と言語活動における課題」『人文科教育研究』48，pp.191-202，人文科教育学会.
・中嶋真弓（2011）「国定小学校用国語教科書第 4・5 期の俳句研究」『愛知淑徳大学論集 文学部・文学研究科篇』36，pp.69-86，愛知淑徳大学文学部.
・夏井いつき（2011）「簡単俳句作りのコツ」日本俳句教育研究会・三浦和尚・夏井いつき編著『俳句の授業ができる本』pp.8-18，三省堂.
・仁野平智明（2016）「小学校国語教科書教材に見る「伝統的な言語文化に関する事項」新設の影響―俳句教材の変遷を中心に―」『熊本大学教育学部紀要』65，pp.7-15，熊本大学.
・長谷川櫂（2008）『一億人の季語入門』角川学芸出版.
・長谷川櫂（2012）『一億人の「切れ」入門』角川学芸出版.
・復本一郎（2014）『俳句と川柳』講談社.
・藤森裕治・西一夫（2009）「国語教科書に埋め込まれた日本文化―「雪・月・花」と季節感―」『国語科教育』65，pp.19-26，全国大学国語教育学会.
・水原秋桜子（1960）『俳句のつくり方』実業之日本社.
・皆川直凡（2005）『俳句理解の心理学』北大路書房.
・文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』東洋館出版社.

[国語教科書]

・秋田喜代美他（2020）『あたらしいこくご　一上』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『あたらしいこくご　一下』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　二上』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　二下』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　三上』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　三下』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　四上』東京書籍 .
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　四下』東京書籍 .
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　五』東京書籍.
・秋田喜代美他（2020）『新しい国語　六』東京書籍.
・甲斐睦朗他（2020）『こくご　一上　かざぐるま』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『こくご　一下　ともだち』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『こくご　二上　たんぽぽ』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『こくご　二下　赤とんぼ』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『国語　三上　わかば』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『国語　三下　あおぞら』光村図書.

・甲斐睦朗他（2020）『国語　四上　かがやき』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『国語　四下　はばたき』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『国語　五　銀河』光村図書.
・甲斐睦朗他（2020）『国語　六　創造』光村図書.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　一上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　一下』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　二上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　二下』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　三上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　三下』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　四上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　四下』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　五上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　五下』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　六上』教育出版.
・田近洵一・北原保雄他（2020）『ひろがる言葉　小学国語　六下』教育出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなとまなぶ　しょうがっこう　こくご　一ねん上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなとまなぶ　しょうがっこう　こくご　一ねん下』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　こくご　二年　上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　こくご　二年　下』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　三年　上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　三年　下』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　四年　上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　四年　下』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　五年　上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　五年　下』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　六年　上』学校図書出版.
・鶴田清司・大岡信・新井満（2020）『みんなと学ぶ　小学校　国語　六年　下』学校図書出版.

（日本大学第一中学・高等学校）